

4
24

今年の捕獲目標頭数は400頭 農作物の被害を防ぐ、有害鳥獣被害対策実施隊



▲4月24日に支所で行われた有害鳥獣被害対策実施隊の任命式

農作物被害防止用としてカラスを配布します

希望者は6月30日(日)午後4時に八郷総合支所駐車場にお集まりください。

狩猟免許等の取得を支援します

市内在住の人が、狩猟免許(銃・わな)を取得する場合に必要な経費を助成します。(ただし合格者のみ)
対象経費：免許申請手数料および予備講習会受講料
☎経済部農政課 Tel 43-1111 (内線 1151)

事故を未然に防ぐため

山間部へ立ち入るときは目立つ服装やラジオなど音が出るものを携帯するなど、ご協力をお願いします。

人里に降りてきたイノシシによる農作物の被害は、石岡市でも深刻な問題です。

有害鳥獣被害対策実施隊とは、猟友会石岡支部と八郷支部から選抜された32人の隊員によって有害鳥獣の捕獲活動を行うグループ。毎年2回、捕獲活動を行い、今年は繁殖期を終えた時期の6月1日～6月30日と収穫時期の9月1日～10月27日に捕獲活動を実施します。

昨年の捕獲頭数は340頭で、これは前年の倍以上。今年の捕獲目標頭数は400頭です。頭数が年々増えているということは、イノシシが激増する中で、隊員たちも朝早くから捕獲活動に取り組み、成果を挙げていることを意味します。隊員の高齢化は進んでいますが、今年は新たに40代の若手ハンターが加入。農家も自ら電気柵を設置して被害を食い止めようと努力したり、昨年度からは十三塚地区で地域ぐるみで防護柵を設置するといった新たな試みも始まりました。「鳥獣被害は今や自然災害」という考えの元、地域と農家と行政が連携し対策に取り組んでいます。

5
5

新たな令和時代、穏やかな気持ちで 常陸國總社宮御田植祭



気温20度を超える快晴の空の下、根小屋の常陸國總社宮(石崎雅比古宮司)の献穀田まきひこで御田植祭けんこくでんが行われ、衣装をまとった6人の早乙女や地域の子どもたちが田植えを行い、秋の豊作を願いました。御田植祭とは、農作業の工程を模擬的に演じ豊作を祈願する神事。献穀田は御田植祭を行う田で2,500平方メートルほどあり、今回はその内の150平方メートルを手植えで行いました。早乙女の一人、前沢瑠みさん(16歳)は今年で2回目の参加です。「早乙女として参加できることは身の引き締まる思い。新しい時代、いいスタートが切れました」と話しました。

5 / 1

新元号「令和」を迎えた最初の日 石岡市では26組のカップルが婚姻届



結婚という人生の節目の日を、新時代の幕開け令和元年の初日に迎えようと、大型連休中の5月1日、石岡市役所には多くの婚姻届が提出されました。

この日の婚姻届提出の記念すべき第1号は、市内在住の矢吹圭佑さん・明穂さんご夫妻。その後も続々と素敵なおカップルが現れ、26組の婚姻届が提出されました。新たな門出を迎えた皆さんが石岡で幸せな家庭を築かれますように。

4 / 28

石岡ならではのスポーツ「トレイルラン」 1,316人のランナーが新緑眩しい里山を快走



朝日里山学校をスタート・ゴール会場に、第12回果物と自然の里 いしおかトレイルラン大会（石岡トレイルランクラブ主催）が行われました。今年の参加者は過去最高の1,316人。12年前は200人ほど大会規模でしたが、半田地区住民が自分たちの所有する山をコースに提供するなど地元ボランティアの後押しもあり、石岡ならではのスポーツとして、盛り上がっています。

8月には支所を会場に筑波連山天空ロード&トレイルラン大会が予定されています。

4 / 2

石岡原産の「貝地高菜」 特有の辛味と旨味は、ふるさとの味



栽培者の一人、阿部豊さん（林地区）は「生命力が強くて味がしっかりしてるのが魅力」と話します

深谷ねぎや練馬大根など、その土地の地名が付けられた野菜がありますが、私たちのまち、石岡市にも「貝地高菜」といって、貝地地区が原産の高菜があります。9～10月頃に種をまき、旬は3月末から4月上旬。病気と寒さに強く、江戸時代には「高菜漬け」として利用され「三里四方から買いに来る」と言われたそう。近年は貝地地区でも数戸の農家が栽培するのみのようですが、石岡の伝統野菜として栽培が続けられています。